

告

1981年雑誌『遊』誌上に一挙掲載された

「松岡正剛が選ぶ365冊の遊学」。

松岡正剛と荒俣宏がタッグを組んだ

伝説のブックガイド、ついに単行本化!

タイトル、装丁、定価、いずれも未定。

それでもまもなく刊行予定!



【タイトル】——未定

【多分】——180頁くらい

【版型】——おそろく四六版変型(きつと上製)

【定価】——おおむね1800円



乞・御・期・待!!



工作舎

「松岡正剛が選ぶ365冊の遊学」より

新刊書で入手可能なものを中心に

01——読書はイマジネーションにはじまる

稲垣足穂『一千一秒物語』
三島由紀夫『美しい星』
つげ義春『改訂版 ねじ式 つげ義春作品集』
夢野久作『ドグラ・マグラ 上下』
アーサー・マッケン他『怪奇小説傑作集 1 英米編 1』
ステイーヴン・キング『シャイニング 上下』
アイザック・アシモフ『空想自然科学入門』
ジョージ・ガモフ『不思議の国のトムキンス』
朝永振一郎『物理学とは何だろうか 上・下』
時実利彦『目でみる脳』
寺田寅彦『寺田寅彦随筆集 全5巻』
松岡正剛『自然学曼陀羅』
龍胆寺雄『シャボテン幻想』
カルロス・カスターネダ『ドン・ファン』の教え』
金関丈夫『お月さまいくつ』
E・A・ポオ『ポオ詩と詩論』
J・G・バラード『J・G・バラード短編全集1』

02——読書は男のケンカだ

フレデリック・フォーサイス『ジャッカルの日』
ジョン・ル・カレ『寒い国から帰ってきたスパイ』
山本周五郎『正雪記 上下』
モーリス・ルブラン『813 正・続』
アルフレッド・ベスター『虎よ、虎よ!』
野坂昭如『野坂昭如リターンズ(1)』
埴谷雄高『幻視のなかの政治』
沢木耕太郎『テロルの決算』
フランツ・ファノン『黒い皮膚・白い仮面』
P・クロボトキン『ある革命家の思い出 上下』
出口京太郎『巨人出口王仁三郎』
谷川道雄+森正夫編集『中国民衆叛乱史 4』
施耐庵『完訳 水滸伝 全10巻』
ロジェ・カイヨワ『戦争論』

03——読書が記憶の気配をふるわせる

レイ・ブラッドベリ『何が道をやってくる』
トーマス・マン『ヴェニスに死す』
J・G・バラード『沈んだ世界』
大岡昇平『野火』
エド・サンダース『ファミリー』
オルダス・ハックスレー『知覚の扉』
中島敦『中島敦全集 全3巻』
坂口安吾『夜長姫と耳男』
柳田国男『日本の昔話』
桜井徳太郎『靈魂観の系譜』
折口信夫『死者の書』
『小型聖書 新共同訳』
I・ヴェリコフスキー『衝突する宇宙』
B・W・オールディス『地球の長い午後』
山田正紀『神狩り』
白川静『漢字の世界1・2』

04——読書で自分をあらためて知る

A・ポルトマン『人間はどこまで動物か』
栗本慎一郎『パンツをはいたサル』
B・ルドフスキー『みっともない人体』
エドワード・ホール『かくれた次元』

エルンスト・マッハ『感覚の分析』
吉本隆明『心的現象論序説』
市川浩『精神としての身体』
野口三千三『原初生命体としての人間』
笠井勲『聖霊舞踏』
ノヴァーリス『日記・花粉』

05——読書は見るものかもしれない

ロジェ・カイヨワ『幻想のさなかに』
マックス・エルンスト『百頭女』
パウルクレー『造型思考 上・下』
エミール・ベルナル編集『ゴッホの手紙 上・中・下』
藤原新也『西藏放浪』

06——読書でジャパネスクに耽る

吉川英治『私本太平記 全8巻』
山田風太郎『柳生忍法帖 上下』
松本清張『火の道 上・下』
諸星大二郎『暗黒神話』
黒岩重吾『天の川の太陽 上・下』
西郷信綱『古事記の世界』
折口信夫『古代研究 全6巻』
大岡信『うたげと孤心』
唐木順三『唐木順三ライブラリー 中世の文学 無常』
岡倉天心『茶の本』
林屋辰三郎『ほか解説』教訓抄』
小島政二郎『小説 葛飾北斎 上下』
石川桂郎『俳人風狂列伝』
司馬遼太郎『空海の風景 上・下』
鈴木大拙『日本的靈性』
白洲正子『十一面観音巡礼』

07——読書が生命と宇宙の謎をとく

E・シュレディンガー『生命とは何か』
C・ローレンツ『ソロモンの指輪』
M・メーテルリンク『蜜蜂の生活』
ジャック・モノー『偶然と必然』
S・ワインバーグ『宇宙創成はじめの3分間』

08——読書は大なる遊戯である

柄井川柳『誹風柳多留』
小栗虫太郎『黒死館殺人事件』
ロレンス・ダレル『アレキサンドリア四重奏 全4巻』
トマス・ピンチン『V. 上下』
J・L・ボルヘス『伝奇集』
井尻正二『ほか監修』地学事典』
ロラン・バルト『モードの体系』
L・ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』
本田清『易』
磯崎新『建築の解体』
塚本邦雄『文庫版 塚本邦雄全歌集 8』

09——読書を荒俣宏にまかせてしまう

ノーマン・コーン『千年王国の追求』
出口ナオ『大本神論 火の巻』
『神道集』

松浦静山『甲子夜話 1』
後藤木雄『中国思想のフランス西漸 1』
平川祐弘『マッテオ・リッチ伝 全3巻』
R・G・コリングウッド『自然の観念』
ジュール・ベルヌ『海底二万里』
H・G・ウェルズ『世界はこうなる 上下』
曲亭馬琴『南総里見八犬伝 上下』
ジョン・ラスキン『近代画家論 1・2』
ボリス・ヴィアーン『うたかたの日々』
M・マクルーハン『メディア論』
ガルシア・マルケス『百年の孤独』
紫式部『源氏物語 全6巻(新版として3巻まで刊行中)』
ベルトルロ『錬金術の起源』
ポール・アザール『ヨーロッパ精神の危機』
ラマツィーニ『働く人の病気』
土田よし子『つる姫じゃ〜っ! ベストセレクション』
大島弓子『バナナブレッドのプディング』

10——読書そのものを読書する

ゲーテ+エッカーマン『ゲーテとの対話 上・中・下』
ジョルジュ・ブーレ『円環の変貌 上・下』
コリン・ウィルソン『アウトサイダー 上・下』
モーリス・ブランショ『文学空間』
A・O・ラヴジョイ『存在の大いなる連鎖』
花田清輝『復興期の精神』
スーザン・ソントグ『反解釈』
白川静『孔子伝』
大室幹雄『正名と狂言』

11——読書が歴史の矛盾を告示する

ジョセフ・ニーダム『文明の滴定』
鈴木秀夫『超越者と風土』
白川静『中国古代の文化』
大佛次郎『天皇の世紀 全12巻』
O・シュベングラール『西洋の没落 上・下』
M・マクルーハン『グーテンベルグの銀河系』
草森紳一『絶対の宣伝1・2・3・4』
T・K生『韓国からの通信—1972. 11~1974』
チャンドラー+スパウソン『革命に向かうタイ』
ナタン・ワインストック『アラブ革命運動史』

12——読書で一番遠いところへ行く

アーサー・C・クラーク『地球幼年期の終り』
ノヴァーリス『青い花』
ロード・ダンセイニ『ペガサスの神々』
宮沢賢治『銀河鉄道の夜』
吉田一穂『吉田一穂詩集』
F・ニーチェ『ツァラトゥストラかく語りき』
J・G・バラード『結晶世界』
マンリー・P・ホール『象徴哲学大系 全4巻』
ルドルフ・シュタイナー『神智学』
P・D・ウスペンスキー『新しい宇宙像 上下』
コスタス・アクセロス『遊星的思考へ』
A・N・ホワイトヘッド『過程と実在 上下』
『原始仏典 上下』
道元『正法眼蔵 全4巻』
空海『空海コレクション 2・3・4』
荘子『荘子 全4巻』